

## 第3回農業高校の学びの充実懇話会（報告）

### 1 日時

令和6年10月29日（火） 午前9時～午前11時40分

### 2 場所

県庁14階 14-A-1会議室

### 3 出席委員

大久津委員，都外川委員，東園委員，野村委員，上村委員，谷口委員，木場委員，園山委員，中山委員，永吉委員，増永委員

### 4 懇話会の主な内容

第2回農業高校の学びの充実懇話会の報告，農業高校の教育内容及び教育環境の改善・充実について意見交換

### 5 各委員の主な意見

- 商業や工業といった異なる教科との連携を行っている事例がある。農業高校でも，他の教科と連携して取り組むなど，教科横断的な学びを充実させることも必要ではないか。また，農業高校同士で学びの共有や共同で研究に取り組むことも，教育効果を高める上で必要ではないか。
- 農業高校においても，循環社会を確立するために規格外の農産物の販売や利活用，自社で生産した農産物のファンをつくるためのSNS等の活用方法を授業で学ぶなど，経営の視点を養う教育も必要と考える。
- スマート技術の活用は，あらゆる分野で進んでいる。人口減少社会における後継者育成には，スマート技術の活用は当たり前になってくる。業界としてもスマート技術を活用した出前授業については協力できるので，ぜひ活用してほしい。
- 農業高校は様々な取組を実践しているが，単発的な取組が多いと考える。年間を通じた取組を行うことが教育内容の充実につながると考える。また，先生方の異動によって特色ある教育活動が継続しにくい課題がある。地域との連携の在り方等についての研修会やマニュアル化等を通じて，担当者が変わっても特色ある教育活動を継続できると考える。
- 農業高校における農業に関する全般的な教育は，農業の理解者を育てる意義があると理解しているが，そういった学校とは区別した担い手農家を育てるための農業高校も必要ではないか。

- 入学者が減少する中で、生徒一人当たりの敷地面積が増大していることが課題。農業高校においては、農地も含めた校地の整備が職員・生徒の手で行われていることから、農業高校の広大な農地の利活用について地域や関連事業者と連携していくことで、学びの充実や農地の維持管理ができるのではないかと。また、広大な敷地の管理には、スマート農業機器も有効であることから効果を考えながら、積極的に活用すべきである。
- 農業教育に必要な機器の導入・維持にはコストがかかるため、機器の使用については、関連団体から協力をいただいたり、リースで対応したりすることも検討してはどうか。
- 教育環境の整備には、寮や校内の交流スペースを整備するなど、生徒が快適に学校生活を過ごせる要素もあり、これらを整備することが、志望者数にも影響するのではないかと。
- これまでも、農業高校は、農業大学校や鹿児島大学と学びの充実のために連携しているが、出前授業など単発的な取組が多い。今後、農業大学校と農業高校、あるいは鹿児島大学・農業大学校・農業高校が共通テーマで、地域の課題解決や地元資源の商品化に向けて継続したプロジェクトに取り組むというような連携も進めていけないものかと。高大接続の観点からも意義があり、入学後にそれらの研究を継続できることが理想である。
- 教員の研修については、各種情報誌等の活用や通信教育など、自己研鑽に努めることも必要であるが、県が行っている研修等をさらに充実させることで、先生方の資質・能力が高まると考える。また、受講後に先生方が学んだ内容を広く周知する機会を構築していくことで、教員の全体的な資質向上を図ることができる。
- 教員は専門性が高い仕事であり、自分の専門を高めることも必要であるが、それだけではなく、農業に関して必要な総合的な知識を身に付けることも大切である。例えば、農業を食料産業として総合的にとらえた上で、教育の方向性を考えられる現場のコーディネータ力を備えた人材の育成も重要ではないかと。また、子どもたちが学びや進路に関する悩みの相談ができるメンターを担う人材も今後必要と感じている。

- 農業高校の入学者数減少については懸念されているところだが、農業高校の重要性を理解してもらうためにも、「食」の大切さを、地域ぐるみで子どもたちや保護者世代にも認識を高めてもらうことが必要。農業県だからこそその食農教育の取組を充実させることが必要。
- 農業も稼げる産業だとアピールしていくことも必要。また、中山間地を含む地域の環境保全という社会貢献にもつながるという点も含めて、農業の意義や魅力を伝えていく必要がある。
- 本懇話会の意見等を踏まえ、農業高校の学びの充実を目的とした「農業後継者育成プロジェクト」等の組織を行政や関連団体等で組織化するべきだと考える。そこで、プロジェクトの方向性を定めた上で、優秀な農業経営者や専門家を学校へ派遣したり学校外の研修プログラムを実施したりする等、組織的に継続した学びの充実を図る必要がある。
- 高校では学習指導要領に基づいた教育活動を行うため、本懇話会の全ての提案を取り入れることは難しい。学びの充実を農業高校だけで行うのではなく、関係機関や企業などと連携できる仕組みづくりが必要。農業高校に対して、例えば、農業後継者育成につながるような研修メニューを学校側に提言していくのもよいのではないか。
- 施設設備の整備といったハード面、コース制の導入といったソフト面を充実させ魅力的な農業高校にするためには、地域の実情等もあると考えるが、一定の学校規模が必要ではないか。
- 人口減少が進む中、計画的に農業高校を減らすことも必要ではないか。今の学校数を維持して様々な対策を講じて、同じことを繰り返すだけではないか。学校の運営・維持のためのコストを考えても、農業高校の集約化は必要と考える。集約化によって学びの充実につながれば、県民からの理解も得られるのではないかと。